

科目名	言語教育デザイン論特講	担当者	トヨタ 豊田 テツヤ 哲也	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>言語教育に関する研究を遂行するためには、研究方法の策定と、収集したデータに対する適切な分析手法が必要不可欠である。本講座は、言語教育研究で用いられる研究法と統計分析手法について研究事例を参考に学習し、各研究法に応じた分析能力を習得することで、自身の研究計画立案能力の向上を目的とする。これにより、当該分野についての知識や倫理観を養い、論理的かつ批判的な思考力のほか、当該分野の問題点の発見とその解決を通じた挑戦力や省察力の獲得を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 言語教育研究における各種研究法・統計分析手法の特徴を理解し、言語教育研究を実践するためのアプローチを正しく理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研究法・統計分析手法について理解し、説明することができる。 ・研究計画を立案することができる。 ・研究内容に応じた統計分析手法を選択し、結果の解釈ができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio 上での教員とのディスカッション</p> <p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材を熟読し、レポートを執筆する。（学修時間：10 時間） ・レポートの作成と推敲において自己添削を繰り返してレポートを完成させる。（学修時間：15 時間） ・教員からの添削を踏まえてレポートを修正する。（学修時間：20 時間） 		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6 月末：レポート課題 1 初稿提出 ・8 月末：レポート課題 2 初稿提出 ・前期課題提出締切日：レポート課題 1, 2 最終稿提出 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 月末：レポート課題 1 初稿提出 ・12 月末：レポート課題 2 初稿提出 ・後期課題提出締切日：レポート課題 1, 2 最終稿提出 		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	構成、表現方法、課題の認識、論旨の明確さ等に加えて、以下の基準で評価する。 ・教材内容の理解度（レポート初稿を基に評価） ・レポートの完成度（レポート最終稿を基に評価）
	観察記録	20%	レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート提出前に、自己添削によるレポートの完成度向上に努めること。 ・レポート提出の締切は厳守すること。 ・レポート作成にあたって引用した情報は必ず明記すること。 ・レポートは研究倫理を遵守して作成し、無断引用等の研究倫理違反には十分留意すること。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 西村純一，井上俊哉 教材名： 『これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法』（ナカニシヤ出版，2016）ISBN 978-4-7795-0998-8，2,800 円+税
	本書は心理学の初学者向けに，基礎的な研究法と収集データを分析するための統計法についてやさしく書かれている．研究計画の立案と研究目的に応じた分析手法を理解することが可能である．
参考図書	三浦省五，前田啓朗，山森光陽，磯田貴道，廣森友人『英語教師のための教育データ分析入門』（大修館書籍，2004）ISBN 978-4-469-24493-9，1,600 円+税 鈴木真人『分散分析と実験計画法』（日本工業新聞社，2018）ISBN 978-4-526-07829-3，2,400 円+税
履修上のポイント	言語教育研究を進める上で必要な研究法について学び，それぞれの研究法をどのように言語教育研究で役立てられるかを考えながら学習を進めること．その際に，各研究法について詳細に理解できなくても構わないが，研究目的を明らかにするためにどのような研究法を用いるべきなのかを考えながら学習してほしい．研究に用いられるデータの特性に配慮しつつ，各研究法の特徴について理解を深めること．
レポート課題 1	第 I 部「研究法」を読み，3 章～7 章の各研究法について要点をまとめる（5,000 字程度）． 留意点： 教材の内容を自分の言葉で説明すること．それぞれの研究法の比較等を行う場合は，各研究法の要点説明後に記述する．図表等を適宜使ってわかりやすい記述を心がけること．
レポート課題 2	「実験法」「観察法」「面接法」「質問紙法」「事例研究法」のいずれかを用いた言語教育研究の論文を 2 本探し，それぞれの研究デザイン（目的，方法，データの種類，分析方法，結果）についてまとめる（5,000 字以内）． 留意点： 論文は各研究法が異なるものを選ぶこと．論文の内容についての記述は要点のみとし，研究デザインについての考察を充実させること．

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 西村純一，井上俊哉 教材名： 『これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法』（ナカニシヤ出版，2016）ISBN 978-4-7795-0998-8，2,800 円+税
	本書は心理学の初学者向けに，基礎的な研究法と収集データを分析するための統計法についてやさしく書かれている．研究計画の立案と研究目的に応じた分析手法を理解することが可能である．
参考図書	島田めぐみ，野口裕之『日本語教育のためのはじめての統計分析』（ひつじ書房，2017）ISBN 978-4-89476-862-8，1,600 円+税 奥村太一『教育実践データの統計分析 -学校評価とよりよい実践のために-』（共立出版，2012）ISBN 978-4-320-11028-1，2,500 円+税
履修上のポイント	研究計画を立案するためのポイントを押さえながら学習を進めてほしい．基本教材は言語教育を対象としていないが，言語教育研究を進めていくために参考になる教材である．参考図書と併せて精読されることを勧める．各統計手法がどのような研究の分析に用いられているかを対応付けながら課題に取り組んでほしい．統計手法に用いられるデータを中心とした考察を充実させること．
レポート課題 1	第 II 部「統計法」を読み，それらの統計手法を使った言語教育に関する研究論文を 2 本探し，研究目的と照らし合わせながら，データ分析の方法と結果の解釈について妥当性や問題点を論じる（5,000 字以内）． 留意点： 論文は統計手法が異なるものを選ぶこと．論文の内容についての記述は要点のみとし，分析方法と結果の解釈についての考察を充実させること．
レポート課題 2	統計手法を使った研究計画を立案する（5,000 字以内）． 留意点： 立案した研究計画で何を明らかにしたいのかについて詳しく論じ，その上で研究目的および収集データに適した統計手法を選択すること．

基本教材 1

第 1 回	基本教材 I の精読 (3, 4 章)
第 2 回	基本教材 I の精読 (5~7 章)
第 3 回	レポート課題 1 の初稿執筆
第 4 回	レポート課題 1 の初稿執筆および自己添削
第 5 回	レポート課題 1 の添削指導を基にしたレポートの修正
第 6 回	レポート課題 1 の添削指導を基にしたレポートの修正
第 7 回	レポート課題 1 の最終稿執筆および提出
第 8 回	研究論文の収集と調査
第 9 回	研究論文の収集と調査
第 10 回	レポート課題 2 における研究論文の決定
第 11 回	レポート課題 2 の初稿執筆
第 12 回	レポート課題 2 の初稿執筆および自己添削
第 13 回	レポート課題 2 の添削指導を基にしたレポートの修正
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導を基にしたレポートの修正
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿執筆および提出

基本教材 2

第 1 回	基本教材 II の精読 (8~11 章)
第 2 回	基本教材 II の精読 (12~15 章)
第 3 回	各統計手法を用いた研究論文の収集および調査
第 4 回	各統計手法を用いた研究論文の収集および調査
第 5 回	レポート課題 1 の初稿執筆
第 6 回	レポート課題 1 の初稿執筆および自己添削
第 7 回	レポート課題 1 の添削指導を基にしたレポートの修正
第 8 回	レポート課題 1 の最終稿執筆および提出
第 9 回	レポート課題 2 における研究計画の立案
第 10 回	レポート課題 2 における研究計画の立案
第 11 回	レポート課題 2 における研究計画の立案, 利用する統計手法の確認
第 12 回	レポート課題 2 の初稿執筆
第 13 回	レポート課題 2 の初稿執筆および自己添削
第 14 回	レポート課題 2 の添削指導を基にしたレポートの修正
第 15 回	レポート課題 2 の最終稿執筆および提出